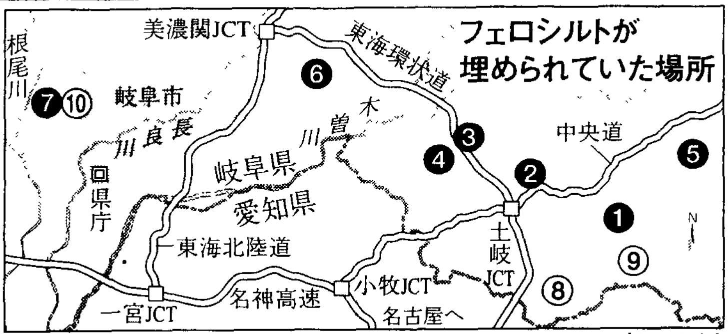
中日新聞　2005.6.18　24面　岐阜県内版

県内に3万トン超

フェロシルト 予想上回る量



❶瑞浪市稲津町
❷土岐市泉町
❸可児市久々利
❹可児市大森
❺恵那市三郷町
❻美濃加茂市加茂野町
❼本巣市早野
⑧土岐市鶴里町
⑨瑞浪市陶町
⑩本巣市と岐阜市の境界付近
【注】⑧⑨⑩はフェロシルトが埋められた疑いがあるとして調査中

放射性物質を含む埋め戻し材「フェロシルト」が可児市や愛知県瀬戸市に放置され、一部現場の土壌から環境基準を超える六価クロムが検出された問題で、県は十七日、判明分の六カ所に加え、新たに本巣市内でも使用されていたと発表した。このほか、東濃と岐阜地域の計三カ所でも使用の疑いがあるとし、県内総搬入量は、当初予想された三万トンを上回る見込みとなった。

使用されていたのは、本巣市早野の農地。使用の疑いがあるのは、土岐市鶴里町、瑞浪市陶（すえ）町、岐阜市と本巣市境。県不適正処理対策室は「これで県内のフェロシルトは全部だと思う」とし、今後の追跡調査はしない方針。

県と製造元の石原産業が、フェロシルトを購入し、各地で販売していたとみられる中津川市の建設業者らに聞き取り調査をした結果、新たな使用を確認した。

石原産業は、販売先の業者に、フェロシルトを転売しないよう指導していたが、帳簿上では今回の搬入先が把握できなかったという。本紙の取材に同社の担当者は「販売後の指導が徹底されていなかった。申し訳ない。疑いのある場所も含めてフェロシルトの存在を確認し次第、水質調査、土壌調査をした上で、自主回収に応じたい」と話した。

同社は、今週中に撤去計画を県に提出する予定としていたが、すでに放置が明らかになっている現場近くの住民と撤去方法について話し合うため、提出は遅れる見込み。石原産業は「なるべく早く撤去計画を提出したい」と話している。

（小西　数紀）

放射性物質を含む埋め戻し材「フェロシルト」の使用が新たに確認された農地＝本巣市早野で

農地にフッ素 基準値の3倍

本巣

フェロシルトの使用が明らかになった本巣市早野の農地。同市などによると、岐阜市の建築業者が二〇〇二年二月、砂利採取のために掘った穴の埋め戻しに、約三千一四千立方メートル分を使用したとみられる。

市は十七日夜、農地付近の約百二十戸に、土壌と近くの井戸二カ所の検査結果を配布。六価クロムと井戸水のフッ素はいずれも基準値以下だったが、土壌のフッ素は基準値の三倍弱だった。市は「作物への影響は懸念されるが、地下水の汚染は今のところ見られない」とするが、引き続き井戸の検査を続け、県の検査結果も待つ構え。

〇一年夏に業者の地元説明会に参加した男性（六三）は「山土などを埋め戻すとの説明で、フェロシルトを使う話は一切なかった」と不信感もあらわ。近くで富有柿を栽培する主婦（三九）は「怖い。関係者は責任ある対応を」と不安げに話した。

一方、フェロシルトが埋まっている疑いが明らかになった瑞浪市陶町。付近の住民によると、元鉄工所の資材置き場約二百平方メートルで、周囲より約二メートル低くなっていたため、経営者の引っ越し後に埋め立てられ、更地にされたという。

土岐市鶴里町の現場も山林の中にあり、周辺では産廃関連のトラブルが続いている。「近くにあるため池が濁ったままだったので、前から心配していた」と町内会長の長江重昌さん（五二）。鶴里町内会長会は十七日夜、「一帯は田んぼやため池が多い」として、現場だけでなく付近の水質調査を県や市に要望することを決めた。

（相馬敬、遠藤康訓）